

# 平成 29 年度事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

平成 29 年度は、引き続き「公益財団法人福島県国際交流協会第 5 期運営基本計画（平成 28 年度～平成 32 年度）」の各基本目標に基づく事業計画に沿って、各事業に取り組んだ。

## 【基本方針及び目標】

### 基本方針 1 多文化共生による地域づくりを推進します。

互いの文化の違い等を理解し対等な関係で尊重し合い、共に生きる地域社会の実現を目指します。  
外国出身県民を含めた県民誰もが住みやすいと感じ、その能力を生かして地域社会の一員として活躍できる環境を整備します。

## 【数値目標】 外国出身のサポーター※の延べ活動人数

(単位：人)

項 目	平成 29 年度 目 標	平成 29 年度 実績 (達成率)
延べ活動人数	75	50 (67%)

数値目標は、当協会第 5 期運営基本計画（平成 28 年度～平成 32 年度）に基づく。

※「サポーター」とは、人材バンク制度及びボランティア登録制度の登録者

## 【事業実績】

### 1 異文化理解および国際交流の機会を提供する事業

#### (1) 国際理解出張講座（多文化共生編）

県内の公民館主催事業や各種団体等の会合に当協会職員等が講師として出向き、県民（児童生徒等を除く）を対象として、文化の多様性、外国人の人権、異文化理解や貧困問題などをテーマとした講座を実施した。（児童生徒等を対象とする講座については、P13 の「国際理解出張講座（グローバル人材編）」に記載。）

○ 参加者：205 人（前年度実績 185 人）

○ 講座名と実施回数

	講 座 名	実施回数
A	Let's Communicate !～外国人とのコミュニケーションのポイント～	1
B	Let's Talk About～ミスコミュニケーションから相互理解に向けて～	1
C	Diversity in Canada～多文化の国 カナダ～	
D	これってアリ？	1
E	世界がもし 100 人の村だったら	
F	貿易ゲーム	
G	新しい惑星の旅	

H	シータちゃんの日	
I	のぞいてみようイスラム文化	2
J	ホームステイおもしろ体験	1
K	魚獲りゲーム	
L	じゃがいも君と話そう	1
M	その他（依頼団体の講座のねらいに応じて）	2

合計 9 回（前年度実績 6 回）

## (2) グローバルコミュニティカフェ

外国語による会話を通じて、外国の言語や社会、文化等に関する理解を深めるため、講師として外国出身の多文化共生・国際交流人材バンク登録者等を活用し、気軽に外国語に触れる機会を当協会にて定期的に提供した。

なお、10 月は南相馬市国際交流協会、12 月は白河市国際交流協会、2 月は会津喜多方国際交流協会と協働し、それぞれの市で出張型として実施した。

### ア グローバルコミュニケーションコース

月 1 回様々な国の出身の講師を迎え、講師の国で話されている言葉に触れながら、その国の文化を理解するコースを開催した。

- 実施回数：11 回（5 月～3 月）
- 参加者：113 人（うち外国出身者 12 人）（前年度実績 97 人〈3 人〉）
- 講師の出身国：フィリピン（2 人）、ベトナム、インド、ブラジル、メキシコ、エジプト、ケニア、ニュージーランド、タイ、韓国

### イ 英語コミュニケーションコース

あらかじめ設定した様々なテーマについて、英語でフリーディスカッションを行いながらゲストスピーカーの国の文化を理解するコースを開催した。

- 実施回数：22 回（5 月～3 月）
- 参加者：207 人（うち外国出身者 9 人）（前年度実績 238 人〈14 人〉）

## (3) 国際交流広報紙「ジャイロ」の発行

県民の国際交流への興味関心をより一層高めるため、県内の国際交流等に関する様々な取組や情報をタイムリーなテーマで特集した国際交流広報紙「ジャイロ」を発行し、公共施設等を通じて県民に広く配付した。

- 発行月：8 月、2 月
- 発行部数：5,000 部
- 仕様：A4 判 8 ページ、両面フルカラー
- テーマ国：ベトナム（8 月号）、フランス（2 月号）
- 内容：Interview with Foreigners、ふくしまで「暮らす。働く」、世界を歩こう！、海外グルメ事情、ぶらっと Fukushima など
- 配付先：賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、エスニック料理店ほか

## 2 多言語による対応を推進する事業

### (1) 多言語による相談対応事業 《県委託事業》

外国出身県民からの行政サービス等生活に関連する様々な問合せに多言語で対応した。

#### ア 外国出身者のための相談窓口

多言語相談員 1 人及び通訳員 3 人を配置し、中国語と英語は随時、韓国語、タガログ語、ポルトガル語は毎週木曜日 10:00～14:00（第 4・第 5 木曜日は予約制）に、行政サービスや在留資格など外国出身県民に関わる各種問合せに対応した。

- 相談件数：579 件（前年度実績 477 件）
- トリオフォン(三者通話電話)利用件数:51 件（前年度実績 35 件）
- 相談言語別内訳

言語名	中国語	日本語	英語	タガログ語	ポルトガル語	韓国語	合計(件)
件数	338	197	26	9	5	4	579

#### イ 外国人相談窓口ニューズレターの発行

外国出身県民の相談事例等を掲載したニューズレターを作成し、県内の行政機関等に配付することにより、当協会の相談窓口の広報を図った。

- 発行月：8 月、2 月
- 発行部数：100 部
- 仕様：A4 判 2 ページ、両面白黒
- 内容：平成 29 年度相談窓口状況報告、相談事例の紹介、トリオフォンを使った無料通訳サービス及び外国出身者のための相談窓口の紹介など
- 配付先：県内の市町村住民関係窓口、保健福祉事務所及び児童相談所など

#### ウ 市町村広報誌への掲載

各市町村に対し、外国出身者のための相談窓口案内の広報誌への掲載を依頼することにより、当協会の相談窓口の広報を図った。

- 掲載月：5 月～9 月
- 掲載市町村数：31 市町村

#### エ 外国人のための緊急時・災害時用カードの発行

外国出身者が、非常時に周囲の日本人に助けを求める際に提示ができるとともに、当協会相談窓口の案内等が記載されたカードを作成した。

- 発行月：9 月
- 発行部数：5,000 部
- 仕様：名刺サイズ（2 つ折り）、両面 2 色
- 内容：トリオフォン（三者通話電話）を使った無料通訳サービス及び外国出身者のための相談窓口の紹介、消防署や警察署の電話番号など事例の紹介
- 配付先：日本語教室や外国出身者コミュニティ、当協会主催事業への参加者等

## (2) 多言語による情報提供事業 《県委託事業》

外国出身県民の本県での暮らしをサポートするため、当協会ホームページやフェイスブック、ツイッターの3つの媒体を活用し、中国語、英語、タガログ語、韓国語、ポルトガル語で地域のイベント情報や身近な生活情報を提供した。

- 情報件数：126件(前年度実績 89件)
- 多言語発信回数：576回(前年度実績 369回)
- 言語別内訳

言語名	英語	中国語	タガログ語	韓国語	ポルトガル語	合計(件)
回数	127	118	111	111	109	576

## 3 日本語によるコミュニケーションを支援する事業

### (1) ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業 《文化庁委託事業》

外国出身県民が、日常生活をする上で必要かつすぐに使える実用的な日本語能力を習得できるようにするため、次の〔取組1〕から〔取組4〕の事業を行った。また、各取組の効果的な実施を検討・検証するための運営委員会を設置し、協議を行った。

#### ア 運営委員会の設置

- 運営委員(敬称略)：米勢治子氏(東海日本語ネットワーク副代表)他、計6人
- 開催状況

	日時	出席 委員数(人)	内容
1	5月26日(金) 13:30~15:30	6	事業の概要説明 取組1、2、3(下記)についての協議
2	9月14日(木) 13:30~15:30	6	取組1、3(下記)の報告 取組2、4(下記)についての協議
3	2月22日(木) 13:30~15:30	5	各取組の報告及び成果と課題についての協議 事業全体の成果と課題の取りまとめ及び評価

#### イ 〔取組1〕既存の日本語教室における日本語講座及び日本語ボランティアスキルアップ研修会

県内各地の5つの日本語教室と協働して、それぞれの教室に通っている学習者を対象に、文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教育」に沿った日本語講座を実施した。またその講座に併せて、日本語ボランティアのための研修会を開催した。

- 実施回数：5か所(6月~1月)
- 協働団体：(公財)いわき市国際交流協会 他、計5団体
- 参加者：日本語講座 152人(うち外国出身者 65人)  
研修会 98人(うち外国出身者 8人)

- 講 師：加藤早苗氏（インターカルト日本語学校長）、品田潤子氏（公益社団法人国際日本語普及協会教師会員）、芳賀洋子氏（地球っこクラブ 2000 代表）

#### ウ〔取組2〕外国出身者コミュニティを対象とした日本語講座

県内各地の外国出身者コミュニティと協働して、文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教育」に沿った日本語講座を開催した。

- 実施回数：11回（8月～11月）
- 協働団体：福島中国伝統文化愛好会、福島華僑華人総会 他、計11団体
- 参加者：140人（うち外国出身者 140人）

#### エ〔取組3〕新規日本語教室開設に向けたトライアル日本語講座及び日本語ボランティア研修会

日本語教室が開催されていない棚倉町において、（一財）棚倉町活性化協会と協働して、文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教育」に沿ったトライアル日本語講座と日本語ボランティア研修会を実施した。

- 実施回数：6回（7月～9月）
- 場 所：棚倉町立図書館
- 講 師：菊地紀子氏（二本松国際交流ボランティアざくざくネット代表）他、計4人
- 参加者：日本語講座：111人（うち外国出身者 43人）  
日本語ボランティア研修会：73人（うち外国出身者 5人）

#### オ〔取組4〕日本語教育活動成果セミナー

〔取組1〕から〔取組3〕の成果を共有するためのセミナーを開催した。

- 日 時：2月3日（土）13:00～16:00
- 場 所：当協会
- 参加者：日本語ボランティア等 43人（うち外国出身者 2人）
- 内 容：基調講演「『生活者としての外国人』のための日本語教育のあり方」  
講師：結城恵氏（群馬大学大学教育・学習支援機構大学教育基盤センター教授）  
パネルトーク「日本語いろいろ、日本語学習法もいろいろ」  
発表者：佐々木千賀子氏（ほうらい子ども日本語教室）他4人

#### (2) わかりやすい日本語に関する意識啓発及びスキルの普及

外国出身県民に対する日本語による情報提供や日本語によるコミュニケーションを円滑に推進するため、様々な団体が行う事業を活用して当協会職員による研修会を実施した。

- 実施回数：7回
- 講 師：幕田順子（当協会）
- 参加者：467人（うち外国出身者 0人）

- 主な内容：窓口担当者を対象としたわかりやすい日本語のワークショップの実施  
イベントでの当協会ブース来場者を対象とした「やさしい日本語カードゲーム」の実施 など

#### 4 多文化共生による地域づくりを担う人材を育成・活用する事業

##### (1) 多文化共生・国際交流人材バンク制度

多文化共生による地域づくり及び国際交流活動を推進するため、「多文化共生・国際交流人材バンク制度」に登録してもらうとともに、多様な主体からの紹介の依頼に応じ、登録者に活動の機会を提供した。

##### ア 登録者

- 人数：125人（うち外国出身者数 54人）（前年度実績 65人（20人））
- 出身国別内訳

出身国	日本	中国	フィリピン	タイ	韓国朝鮮	台湾	その他※	計 (人)
人数	71	25	6	5	3	3	12	125

※ ブラジル（2人）、オーストラリア、ルワンダ、ベトナム、スリランカ、エジプト、ネパール、パキスタン、パラグアイ（アルゼンチン）、ニュージーランド、バルバドス 各1人

##### イ コーディネート総数

55件、活動者数 69人（うち外国出身者 50人）  
（前年度実績 63件、84人（48人））

##### （ア）公的団体等からの依頼

- 件数：24件（前年度実績 30件）
- 活動人数：35人（うち外国出身者 31人）（前年度実績 43人（29人））

##### （イ）当協会主催事業への協力

- 件数：12件（前年度実績 10件）
- 活動人数：14人（うち外国出身者 14人）（前年度実績 16人（13人））

##### （ウ）外国の子どもの学校生活への適応支援

外国の子どもの学校生活に適応できるようにするために、初期の日本語指導及びができるサポーター及び三者面談等での通訳ができるサポーターを紹介した。

##### a 日本語指導

- 件数：15件（前年度実績 23件）
- 活動人数：16人（うち外国出身者 3人）（前年度実績 25人（6人））

##### b 通訳

- 件数：4件（前年度実績 なし）
- 活動人数：4人（うち外国出身者 2人）（前年度実績 なし）

## ウ 語学人材スキルアップ研修会

多文化共生・国際交流人材バンク制度の語学人材登録者や登録に関心のある方を対象に、モチベーションの維持と資質向上のため、午前の部（10：00～12：00）は基礎演習、午後の部（13：00～15：00）は実践演習として研修会を開催した。

(ア) 福島会場（当協会）

- 開催日：12月16日（土）
- 講師：何敏氏（福島大学国際交流センター副センター長）
- 参加者：午前の部 19人（うち外国出身者 9人）  
午後の部 20人（うち外国出身者 8人）

(イ) 須賀川会場（須賀川市中央公民館）

- 開催日：1月20日（土）
- 講師：何敏氏（福島大学国際交流センター副センター長）
- 参加者：午前の部 19人（うち外国出身者 9人）  
午後の部 18人（うち外国出身者 6人）

## エ 外国の子ども支援人材養成講座

市町村教育委員会等と協働して、日本語がわからない外国の子どもが学校生活に適應できるように日本語又は母語による支援を行う「外国の子ども支援人材」の養成講座を行った。

- 実施回数：6回
- 講師：日下部喜美子（当協会）
- 参加者：44人（うち外国出身者 5人）
- 主な内容：「帰国・外国籍児童生等の早期適應のためのサポーター派遣等支援事業」の紹介及びサポーターの役割と指導上の留意点、教材等紹介等

## (2) 多文化共生・国際交流ボランティア登録制度（ホストファミリー・語学）

県民のボランティア活動への参加により、外国出身県民が暮らしやすい環境づくりと国際交流活動を促進するため、登録者を広く募集し、多様な主体からの依頼に応じる体制を整備した。

### ア 登録者

- 人数：98人（うち外国出身者数33人）（前年度実績70人（32人））
- 出身国別内訳：

出身国	日本	中国	韓国朝鮮	フィリピン	ブラジル	その他※	計 (人)
人数	65	16	3	2	2	10	98

※ オーストラリア、カンボジア、メキシコ、ベトナム、タイ、スリランカ、エジプト、ネパール、パキスタン、台湾 各1人

### イ コーディネート総数

実績なし（前年度実績3件、9人（うち外国出身者数1人））

## 5 外国出身の子どもの学校生活への早期適応を支援する事業

### (1) 帰国・外国籍児童生徒等の早期適応のためのサポーター紹介・派遣等支援事業

日本語がわからない外国の子どもの学校生活への適応に関わる心のケア、日本語指導などのサポーター活動について、サポーターの派遣又は紹介、児童生徒等の支援に関する相談対応、成果の検証等を行う「帰国・外国籍児童生徒等の早期適応のためのサポーター派遣等支援事業」を実施した。

#### ア ふくしま外国の子どもサポートセンターの運営

平成26年度に設置した「ふくしま外国の子どもサポートセンター」を引き続き運営し、外国出身の子どもの支援のための相談対応、情報提供、日本語テキスト等の教材の貸出し等を行った。

- 相談件数：20件（前年度実績30件）

#### イ ふくしま外国の子ども支援団体連絡会の運営

平成26年度に設置した同連絡会の事務局として、支援に関わる関係団体・関係者間で講演や支援ツールに関する情報提供を行うとともに、連絡会会員等を対象とした研修会を開催した。

- 情報提供回数：12回（前年度実績21回）
- 外国の子ども支援人材養成講座《再掲》（P7）

## 6 外国出身県民の災害対応を支援する事業

### (1) 多文化共生・国際交流ボランティア登録制度（災害時外国出身県民等支援ボランティア）

被災地等において、外国出身県民等に対し、通訳・翻訳による情報収集、提供等を行う災害時外国出身県民等支援ボランティアの登録者を広く募集するとともに、研修会を実施した。

#### ア 登録者

- 人数：72人（うち外国出身者28人）（前年度実績50人（19人））

#### イ 災害時外国出身県民等支援ボランティア研修会

災害時外国出身県民等支援ボランティア登録者等を対象に、基礎編及び実践編の研修会を実施した。

##### （ア）基礎編

- 日 時：7月30日（日）13:00～16:00
- 場 所：当協会（福島市）
- 参加者：27人（うち外国出身者11人）
- 講 師：村松紀子氏（（公財）兵庫県国際交流協会スペイン語相談員、（一財）自治体国際化協会国際化推進アドバイザー）

- 内 容：「72 時間以上を助け合える隣人になる」に沿った講演とワークショップ
- (イ) 実践編
  - 日 時：8 月 27 日(日)8：30～12：00
  - 場 所：福島県消防学校（福島市）
  - 参加者：13 人（うち外国出身者 3 人）
  - 内 容：福島県総合防災訓練に参加した外国出身者への通訳及び会場内の掲示物の翻訳

## (2) 外国出身県民等に関する防災啓発事業

福島県総合防災訓練に外国出身県民とともに参加し、外国出身県民の防災に対する啓発や地域住民への災害時における外国出身者への配慮に関する啓発を図った。

また、ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業により、県内の日本語教室において「防災」をテーマとした日本語講座を実施した。

### ア 防災訓練への参加

- 日 時：8 月 27 日（日）8：30～12：00
- 場 所：福島県消防学校（福島市）
- 参加者：15 人（うち外国出身者 15 人）
- 内 容：福島県総合防災訓練（主催者：福島県等）への参加
  - [地域住民向け] やさしい日本語ワークショップの実施、広報展示コーナーへの出展
  - [外国出身県民向け] 防災講座の実施、避難所入所受付の体験、起震車体験や煙体験、応急給食の試食体験 など
  - [その他] 住民避難訓練における広報車アナウンスの多言語化、会場内案内板の多言語化

### イ 防災をテーマとした日本語講座の実施

ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業の「〔取組 2〕外国出身者コミュニティでの日本語講座」において、防災等をテーマにした日本語講座を実施した。

- 件数：1 回

## 7 外国出身者コミュニティの活動を支援する事業

### (1) 外国出身者コミュニティ活動支援事業

県内に潜在しているコミュニティの発掘を継続して行った。また、既存の外国出身者コミュニティに対しては、そのコミュニティが主催事業等を行う際の事業企画や関係機関との橋渡しなど事業実施に向けたサポートを行った。

また、ふくしま地域連携型日本語学習総合推進事業の「〔取組 2〕外国出身者コミュニティでの日本語講座」を各コミュニティと協働して実施した。

**【基本方針及び目標】**

**基本方針 2 多様な主体とともに国際交流・国際協力活動を推進します。**

県、市町村、公益法人、NPO等様々な主体と密に情報共有を行い、ネットワークを構築します。さらに、各主体と連携・協働して、様々な国際交流・国際協力活動を効果的に行います。

**【数値目標】 多様な主体からの国際交流・国際協力活動に関わる相談件数**

(単位：件)

項目	平成 29 年度 目標	平成 29 年度 実績 (達成率)
相談件数	225	272 (121%)

※ 【数値目標】は、当協会第5期運営基本計画（平成28年度～平成32年度）に基づく。

**【事業実績】**

**1 多様な主体が行う国際交流・国際協力活動を支援する事業**

**(1) 国際交流・国際協力活動への助成事業**

福島県内に所在する非営利の民間団体が行う本県の国際交流・協力活動の進展に寄与する活動、国際交流活動を通じた本県の復興活動又は本県の復旧・復興の現状を外国語で国内外に発信する情報発信活動に関する助成事業を募集し、4団体の4つの活動に対し、総額35万円の助成をした。

- 募集期間：4月1日～8月31日
- 応募件数：5件
- 助成内容

	団体名	活動名	交付額 (万円)
1	ハワクカマイ福島	フィリピンフェスタ ウィズ ネイバー カントリー イン フクシマ	10
2	(一社)国際女性教育振興会福島県支部・県北地区	アメリカテキサス州ウッドランズ高校生と福島の人々との交流事業・研修	10
3	一般社団法人 Bridge for Fukushima	福島・中国高校生社会課題解決企画「あいでみ」	10
4	會津日タイ友好協会	訪日外国人受入体制強化事業～タイ編～	5

**(2) 国際交流・国際協力活動に関する相談対応事業**

多様な主体が行う国際交流・国際協力活動に関する相談に対応し、人の紹介、ノウハウの提供等を行った。

- 相談件数：272件（前年度実績 223件）

### (3) 国際交流・国際協力活動に関する情報提供等支援事業

多様な主体が行う国際交流・国際協力活動に関する情報を収集し、県民への情報提供を行った。

#### ア 国際交流・国際協力活動に関する情報提供

国際交流・国際協力活動に関する情報を収集し、SNS を通じて広く県民に対し発信した。

	登録者数	発信回数
メールマガジン	260 人 (前年度実績 247 人)	24 回 (前年度実績 24 回)
フェイスブック	(「いいね!」) 592 人 (前年度実績 458 人)	148 件 (前年度実績 398 件)
ツイッター	(フォロワー数) 61 人 (前年度実績 41 人)	308 件 (前年度実績 417 件)

#### イ 国際交流・協力団体ダイレクトリーの発行

県内の国際交流団体・国際協力団体の活動状況を調査し、国際交流・協力活動に参加したい県民に対し、国際交流団体・国際協力団体の連絡先、目的、活動状況等の基本情報をホームページに掲載した。

- 照会時期：8 月
- 登録団体数：88 団体(前年度実績 103 団体)

### (4) 国際交流・国際協力活動を行う団体等に対する外部研修会への推薦

外部団体が行う研修会の参加について、関係団体のメンバーを推薦した。

主催団体名	研修名	期 間	人数
全国市町村国際文化研修所	外国につながりを持つ子どもたちへの学習支援	8 月 21 日～25 日(4 泊 5 日)	2
文化庁	地域日本語教育コーディネーター研修	10 月 17 日～18 日、 2 月 28 日	1
全国市町村国際文化研修所	多文化共生の地域づくりコース	1 月 29 日～2 月 2 日 (4 泊 5 日)	1

## 2 多様な主体との多角的なネットワークを構築する事業

### (1) ネットワークの強化及び会議の開催

多様な主体への訪問や主催事業への参加を通じて、当協会とのネットワークの強化を図った。

## ア 市町村国際交流協会等ネットワーク会議の開催

県内の市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当職員が一同に介し、姉妹都市交流や海外派遣事業等、参加者の関心が高いテーマ毎にグループに分かれ、意見・情報交換を行った。

- 日 時 : 12月7日(木) 13:15~15:45
- 場 所 : 当協会会議室
- 参加者 : 市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当課職員 20団体(22人)
- 内 容 : 事業紹介  
発表者 上野竜弥氏(玉川村産業振興課主査)  
川名隆之氏(本宮市政策推進課課長補佐兼定住交流係長)  
情報・意見交換

## イ 日本語教室代表者会議の開催

県内の日本語教室の代表者が年に一堂に会し、活動での課題の共有と解決に向けた情報・意見交換を行った。なお、午後からはP14に記載した「〔取組4〕日本語教育活動成果セミナー」に参加した。

- 日 時 : 2月3日(土) 10:00~12:00
- 場 所 : 当協会
- 参加者 : 日本語教室代表者等 18団体 27人(前年度実績 16団体 18人)
- 内 容 : 報告(新規日本語教室の活動、文化庁及び全国市町村国際文化研修所主催の研修参加報告)、地域連携についての情報・意見交換

## ウ フェスティバル等への出展

- 出展数 : 3件 (Philipine Festa with neighbor country in Fukushima (ハワクマカイ福島) [福島市]、結・ゆい・フェスタ 2017 (福島市国際交流協会) [福島市]、わくわくワールドフェスティル (同 実行委員会) [相馬市])

## エ 多様な主体が行う事業への出席等

- 出席事業数 : 20件 (南相馬市国際交流協会創立20周年記念式典(南相馬市国際交流協会) [南相馬市]、平成29年度第1次隊青年海外協力隊派遣前訓練修了式・壮行会 (JICA二本松訓練所) [二本松市] ほか)

## オ 市町村国際交流協会等への訪問

- 期 間 : 4月~12月
- 訪問先 : 26市町村国際交流協会(福島市、会津若松市 他、計26)  
6市町村国際交流担当部署(本宮市、須賀川市 他、計6)
- 内 容 : 地域の状況把握、当協会事業への理解と協力依頼

## 【基本方針及び目標】

### 基本方針3 グローバル社会で活躍できる人材を育成します。

次世代を担う若い世代や人材育成を行う指導者等を対象に、幅広い知識や能力を習得する機会を提供し、グローバル社会で活躍する国際性豊かな人材を育成します。

### 【数値目標】 県内のグローバル化を先導する人材の累積育成数

(単位：人)

項 目	平成 29 年度 目 標	平成 29 年度 実績 (達成率)
累積育成数	60	65 (108%)

※ 【数値目標】は、当協会第5期運営基本計画（平成28年度～平成32年度）に基づく。

### 【事業実績】

#### 1 次世代を担う人材を育成する事業

##### (1) 国際理解出張講座（グローバル人材編）

若い世代に対し、環境や貧困など世界規模の課題や、様々な価値観を持つ人々とのコミュニケーション、異文化適応等について学ぶ機会を提供するため、県内の学校等に出向いて参加型の講座を実施した。

○ 参加者：2,211人（前年度実績2,183人）

○ 講座名と実施回数

	講 座 名	実施回数
A	Let's Communicate !～外国人とのコミュニケーションのポイント～	2
B	Let's Talk About～ミスコミュニケーションから相互理解に向けて～	
C	Diversity in Canada～多文化の国 カナダ～	4
D	これってアリ？	9
E	世界がもし100人の村だったら	6
F	貿易ゲーム	1
G	新しい惑星の旅	3
H	シータちゃんの日	3
I	のぞいてみようイスラム文化	1
J	ホームステイおもしろ体験	2
K	魚獲りゲーム	4
L	じゃがいも君と話そう	1
M	その他（依頼団体の講座のねらいに応じて）	1

合計 37 回（前年度実績 39 回）

##### (2) ふくしまグローバルセミナー 2017

福島県国際理解教育ネットワーク（構成団体：福島県、福島県教育委員会、JICA 二本松、当協会）の主催により、県民を対象として、異文化理解や国際協力、多文化共生等について考えるため、外国出身者による母国紹介や国際協力現場レポートなど幅広い内

容の講座を実施した。

- 日 時：9月23日（土）10：00～24日（日）11：50
- 場 所：JICA二本松（二本松市）
- 参加者：高校生以上一般 143人（前年度実績 138人）
- 全体講師：田中浩平氏（青年海外協力隊ネパール会会長）
- 内 容：全体会、昼食/夕食交流会、セッション（「貿易ゲーム～世界貿易を疑似体験！～」他17講座）、グロセミカフェ、自主セッション（「社会人バックパッカー、グアテマラへ旅立つ」他6講座）

### (3) 次世代の海外研修への助成事業

原則として 39 歳以下の大学生や社会人を対象として、国際社会に貢献し世界をリードする幅広い視野や国際感覚を持つグローバル人材を育成するため、非営利の国際交流団体等が主催する海外研修プログラムに参加する際の渡航経費の一部を助成する助成活動を募集し、1 人に対し 10 万円の助成金を交付した。

- 募集期間：4月1日～8月31日
- 応募件数：3件
- 助成件数：1件

	氏名	所属	活動名（国名）	交付額 （万円）
1	佐藤 海帆	福島大学	海外フィールドワーク 「食でつなぐ福島とベトナム」（ベトナム）	10

## 2 県内のグローバル化を先導する人材を育成する事業

### (1) ふくしまグローバル人材育成指導者セミナー 2017

若い世代の指導、研修企画等に携わる者を対象としたグローバル人材育成指導者のための1泊2日のセミナーを JICA 二本松との共催で実施した。

- 日 時：6月17日（土）10：00～18日（日）15：00
- 場 所：JICA二本松（二本松市）
- 参加者：国際交流団体、教員等 24人（前年度実績 41人）
- テーマ：アクティブラーニング×異文化間コミュニケーション
- 内 容：講演「グローバル人材とアクティブラーニング」  
講師：田中治彦氏（上智大学総合人間科学部教育学科教授）  
教材体験「異文化間コミュニケーション」  
講師：川口立喜氏（会津大学グローバル推進本部国際戦略室准教授）  
演習「教材体験①②③の振り返りと学習プログラムの発表」  
講師：木下理仁氏（かながわ開発教育センター事務局長） 等

## 【基本方針及び目標】

### 基本方針 4 海外での風評の払拭に向けて、福島の状態を正確に伝えます。

特に海外で根強い風評を払拭するため、あらゆる機会をとらえて正確な情報を継続して発信するとともに、海外からの視察等を積極的に受け入れます。

## 【数値目標】 風評払拭に向けた多言語による情報発信回数

(単位：回)

項目	平成 29 年度 目標	平成 29 年度 実績 (達成率)
情報発信回数	600	576 (96%)

※ 【数値目標】は、当協会第 5 期運営基本計画 (平成 28 年度～平成 32 年度) に基づく。

## 【事業実績】

### 1 海外での風評払拭に向けて本件の現状を多言語で発信する事業

#### (1) 多言語による福島の状態の発信事業

震災復興に向けた取組や県民の声などの本県の状態を、6 つの言語 (日本語、英語、中国語、韓国語、タガログ語、ポルトガル語) で WEB 発行し、広く世界に発信した。また、3 つの言語 (日本語、英語、中国語) でニューズレター (紙媒体) を発行し、県内外の関係機関 (者) に情報を発信した。

#### ア 多言語による情報発信《再掲》

国内外への本県の状態の正確な発信及び外国出身県民の本県での暮らしのサポートのため、当協会ホームページやフェイスブック、ツイッターの 3 つの媒体を活用し、地域のイベント情報や身近な生活情報を提供した。

- 情報件数：126 件 (前年度実績 89 件)
- 多言語発信回数：576 回 (前年度実績 369 回)
- 言語別内訳

言語名	中国語	英語	タガログ語	韓国語	ポルトガル語	合計 (回)
件数	118	127	111	111	109	576

#### イ 「Fukushima Now」の発行

震災復興に向けた取組や本県に暮らす外国出身県民の声などの本県の状態を掲載したニューズレターを発行した。

- 発行月：8月、11月、2月
- 発行部数：日本語(1,000部)、中国語(1,000部)、英語(1,000部)
- 仕様：A4判2ページ、両面フルカラー
- 内容：本県の風景写真、本県に暮らす外国出身者からのコメント等
- 配付先：賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、民間団体等

## 2 海外からの視察に対応する事業

### (1) 海外からの視察コーディネート事業

国内外の多様な主体が主催する海外からの本県の視察交流について、コーディネートを行うための情報収集を行った。

その他

### 1 関係機関への講師や委員等の派遣

関係機関が主催する事業に対し、講師や委員等として当協会職員を派遣した。

- 件数：4件

### 2 関係機関誌等への原稿協力

関係機関の依頼に応じて、機関誌等の原稿作成の協力をした。

- 件数：1件

## 【基本方針及び目標】

### 基本方針 5 財源の確保に努め、健全な運営基盤の確立を図ります。

当協会の運営の基本となる財源確保、効率的な予算執行及び業務運営の不断の見直し、職員の資質の向上等に努めます。

## 【収支計画】

(単位：万円)

項目	平成 29 年度 計画額 (a)	平成 29 年度 決算額 (b) (差異 a-b)
運用収入	1,195	1,148 (47)
事業収入等	356	294 (62)
県補助金等	2,292	2,264 (28)
外部資金等	200	327 (△127)
収入合計 (A)	4,043	4,033 (10)
事業費	3,800	3,486 (314)
管理費	814	860 (△46)
支出合計 (B)	4,614	4,346 (268)
収支 (A-B)	△571	△313 (△258)
特定資産取崩	350	10 (340)

## 【事業実績】

### 1 財源

効率的な予算執行及び財源の確保に努めた結果、特定資産の取り崩し額が「公益財団法人福島県国際交流協会第5期運営基本計画」の収支計画額以下となっている。基金の運用については、低金利が続く状況の下、安全性を重視しながら引き続き運用益の確保に努めた。

#### (1) 寄附金

- 件数：2件（前年度実績 3件）
- 金額：1,010,000円（前年度実績 1,017,000円）

#### (2) 賛助会費

- 件数：個人会員 122人（うち新規41人）、（前年度実績95人（9人））  
団体会員 67件（うち新規19件）、（前年度実績57件（3件））
- 金額：1,109,000円（前年度実績 942,000円）

## 2 人員体制

平成 30 年 4 月施行の改正労働契約法に対応するため、平成 30 年 3 月 22 日開催の理事会にて、関係規程の改正を行った。